

【 骨子案 】 上島町学校適正配置基本計画 ～子どもの夢を育む学校の在り方について～

令和8年2月 上島町教育委員会

I 計画策定にあたって

- 上島町教育委員会は、令和3年の第1期に続き、令和7年3月に第2期上島町学校の在り方検討委員会を招集し、将来を見据えた望ましい教育環境の在り方について協議を再開した。検討委員会では、学校の現状や課題を踏まえ、学習方法や学校活動、学校配置について検討し、統廃合を含む学校適正配置の方向性を取りまとめ、提言書を提出した。
- これからの社会では、AIやグローバル化の進展を背景に、協働学習・探究学習を通じて、思考力や課題解決力を育む一定規模の学習環境が重要となっている。
- 基本計画の策定にあたっては、児童生徒数や教職員配置、施設状況等を把握するとともに、保護者を中心とした関係者の意見を踏まえ、持続可能で望ましい教育環境の整備を目的として取りまとめた。

II 具体的な学校適正配置基本計画の内容

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 弓削小学校・生名小学校・岩城小学校
令和10年度に、3校を1校に統合し、弓削小学校の施設を活用する。2 弓削中学校・岩城中学校
令和11年度に、2校を1校に統合し、弓削中学校の施設を活用する。3 魚島小・中学校
離島留学制度（さざなみ留学）を活用し、小中一貫校として存続する。 |
|--|

- 統合校の設置場所については、既存校への愛校心が強く、可能な限り残してほしいという意見もあった。
- 各施設の耐用年数を考慮し、既存施設を最大限活用する。
- 児童生徒の学習環境を最優先に考え、統合による変化を最小限に抑える。
- 地域の教育・文化の拠点として地域と学校が協働して子どもを育む体制を更に強化。

III 学校統合に係る教育委員会・学校等の今後の方策

- 校名等、新学校の運営等に関する詳細について、協議・調整する。
- あらゆる通学手段を検討し、通学時間を考慮した運行体制を充実させるとともに、課外活動や部活動後の帰宅手段確保を検討する。また、登下校の安全確保・見守り、始業時間の検討、災害時対応等、ハード・ソフト両面の対策を講じる。
- 少人数指導の利点を活かしつつ、充実した教育体制を構築する。また、小中連携を一層強化し、9年間を見通した教育課程編成を行う。
- 教育・文化の拠点機能が縮小しないよう、PTAや学校運営協議会等を通じて、地域と学校の結び付きを維持・強化し、地域住民が引き続き子どもたちの成長を支える体制を確保する。
- 児童生徒の安全・安心を最優先に考えた対策の徹底、相談体制の充実を行う。災害時について、複数の事態を想定した具体的な対応計画を策定する。そして、一人一人が安心して学校生活を送れる体制づくりを進める。

上記事項の調整に必要な協議を行うため、統合準備委員会（仮称）を設置する。